

共生社会にみる人間性と思いやりの涵養教育環境の一考察
～異文化による共振の着眼とは～

"A Consideration of Educational Environments for Cultivating Humanity and Compassion
in a Symbiotic Society: Focusing on Resonance through Intercultural Perspectives"

617-0811 京都府長岡京市栗生西条 京都西山短期大学 E-mail:kureya@seizan.ac.jp

呉屋 奈都子

KUREYA Natsuko

要約

本研究は、自然体験を通じて人間性と思いやりがどのように育まれるかを、異文化背景を持つ学生と日本文化が生活圏である学生の学びの共振を通して考察したものである。京都西山という自然豊かな環境での教育及び体験学習を通じて、学生たちは自然の力や命の尊さに触れ、共生社会の理念を実感していった。テキストマイニングによる分析からは、自然・命・共感・責任といった語が頻出し、感性と倫理観の育成に自然体験が有効であることが示唆された。

Abstract

This study explores how humanity and compassion are nurtured through experiences in nature, focusing on the mutual learning between students from diverse cultural backgrounds and those immersed in Japanese culture. Through educational and experiential learning in the rich natural environment of Kyoto Nishiyama, students encountered the power of nature and the preciousness of life, gaining a deeper understanding of the concept of a symbiotic society. Text mining analysis revealed frequent use of words such as "nature," "life," "empathy," and "responsibility," suggesting that experiences in nature are effective in cultivating sensitivity and ethical awareness.

Keywords: 共生社会 自然と人の共生 涵養 教育環境 共振

Symbiotic society Coexistence between nature and humans Cultivation Educational
environment Resonance

1. はじめに

本学は 2024 年度より「共生社会」と学科名を変更し、生育歴を異文化で過ごした学生たちが、古都京都西山という自然豊かな環境の中で、四季の移り変わりを地域と共に体感しながら、異文化を発信し双方向の刺激を受けることで、日本社会に寄与できる人材育成を目指している。

本研究では、共生社会概論の「自然と環境」分野において、本学の理念である「人間性の性根」や「思いやり」とは何かを探るとともに、私たちを取り巻く環境を地球人として捉え、自然物に触れる体験を通じて、自然と人との共生の意味を体感し、異文化による環境意識の醸成と共振について考察する。

2. 目的

共生社会における人間性と思いやりの着眼から、涵養教育環境について、異文化による共振の視点から自然と人の共生の根幹である環境意識を一考察する。

3. 調査方法

調査期間：2025 年 6 月 16 日～30 日

調査手法：聞き取り・振り返りペーパー

分析方法：テキストマイニング（共起キーワード出現マップ・ワードクラウド・テーマ別分類）

調査内容：海ガメ保全の海岸活動、生態系、農薬、合鴨農法、絶滅危惧種、人工物、生物学者、命、サイレントスプリング、大崎町の環境教育紹介する中で、記述式回答をとった。本調査においては、その振り返りシートの記述を分析データとして用いることとする。また、できる限り国の成育歴バイアスによる影響がでないよう、あくまでも「涵養環境教育」を主な視点として、「人間性・思いやり」の意識や知識習得を目的とした内容とした。

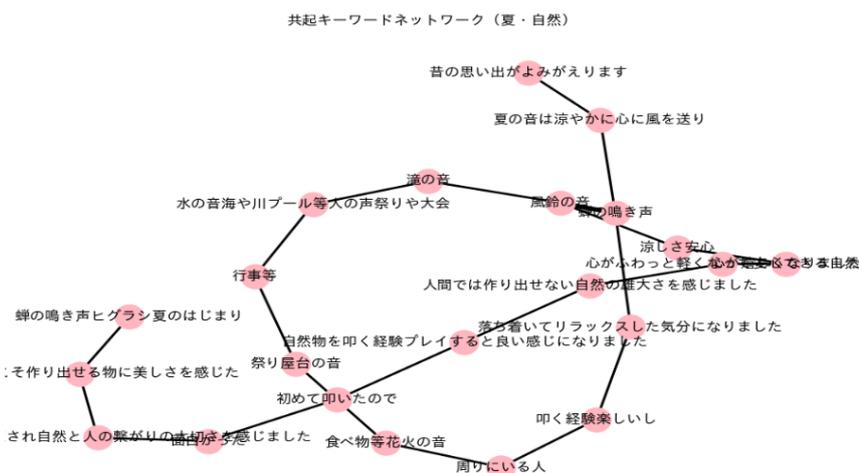
ずっと噴火しつづけるの知らなかった
自然大好き 自然の動きをみて
 その火山をもとにつくられる生態系もあり
自然は怖い力もあるけど
 海イルカ泳ぐ凄**自然の力はとても大きく**
 火山からでてい**る石が軽いびっくりしました**
 人間**の力ではコントロールできないと感じました**
自然の力の壮大さ人間の謙虚さを改めて感じた
自然がないと私たち自身も生きていけないと思いました
自然と共に生きる知恵や工夫の大切さも学べた
 人間の無力さを実感 **私は自然が大好き**
 同時に**自然と共に生きる知恵や覚悟の大切さも学びました**
 人間の思惑や都合とは無関係に独特の法則で動いているんだと思いました
桜島人間自然の恩恵大きく受けて生活を営んでいる
 自然の力大きいと**見てみたいと思った** 人はそれと共に生きるしかないと感じました **偉大さ**
 大きな力を持ち **驚きました** 人はそれに合わせて生きることが大切だと感じました
自然の大切さを改めて感じました **毎日の噴火を知った**
京都にはない自然があって是非行ってみたいと思った
人間の力ではどうにもできないと感じたと同時に
大切にしまさなきゃと思う

問1 考察 桜島という自然の象徴を通して、学生たちは自然の力に対する畏怖、共生への意識、驚き、感謝といった多様な感情を抱いていた。これらの感情は、環境教育において重要な学びの契機となりうる。

今後の教育実践においては、こうした実感を伴う自然体験を積極的に取り入れ、自然との関係性を深める教育のあり方を模索していく必要がある。

問2：レイチェル・カーソン合鴨農法を知って感じたことはなんですか

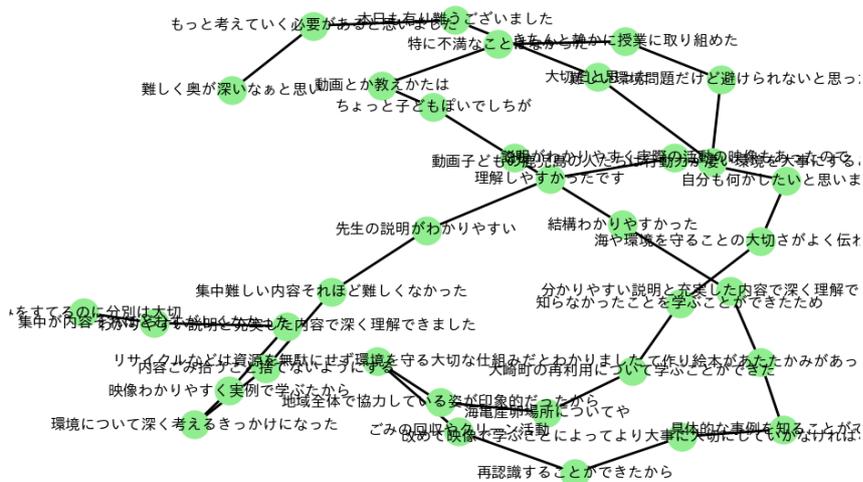
また、合鴨ロボットを知ってどう思いましたか



とても深刻で
 生物濃縮という生き物が食事で体内に溜め込む毒素を人間が食べ
 こわいと思いました
 自分でもマイクロプラスチックについて調べた事がありますが
心配になりました
だから
 早く対策が必要だと感じました
 へらしたいと思いました
 海や生き物に悪いので心配になりました
 問題を知ってびっくりしました
 プラスチックを減らしてリサイクルをすることが大切とおもいました

環境問題と健康問題は分けて考えた方がいいかもしれないと感じます
 現代の消費社会が生み出した見えないごみの脅威だと感じました
 小さなゴミでもちゃんとゴミはゴミ箱に大切に感じました
 環境に悪くて
 それを気がエサと間違えて食べる事もあり
 自然ではまったく分解されないものである
 見えない脅威として環境と健康への深刻な問題だと感じ
 私たち人間にも大きな影響を与えていて怖いと感じます
 海の中でも多く落ちていて
 海や生き物に悪い影響があり
 体にも異常を起こす現象がある以上無さなければ回りに回って人間が捨てた異物が自らに返ってくることになる皮肉なことになる
 早く対策が必要だと感じました
 へらしたいと思いました
 海や生き物に悪いので心配になりました
 問題を知ってびっくりしました
 プラスチックを減らしてリサイクルをすることが大切とおもいました
 ミリ以下の小さなプラスチックごみで海や生物に悪影響を与える深刻な環境問題です
 不法投棄など問題はあるかもしれませんが

共起キーワードネットワーク (SDGs・環境)



わかりやすい説明と充実した内容で深く理解できました
改めて映像で学ぶことによってより大事に大切にしていかなければならないことで
大崎町の再利用について学ぶことができた
内容ごみ捨てること捨てないようにする

大切だと思った

ゴミ分別分かりやすかった

本日も有り難うございました

海や環境を守ることの大切さがよく伝わってきて
動画とか教えかたは

難しく奥が深いなあと思

映像わかりやすく実例で学ぶたから
再認識することができたから
説明がわかりやすく実際の活動の映像もあったので先生の説明がわかりやすい
リサイクルなどは資源を無駄にせず環境を守る大切な仕組みだとわかりました

もっと考えていく必要があると思いました

ちょっと子どもぼいでしちが
て作り絵本があたかみがあった
具体的な事例を知ることができた
自分も何かしたいと思いました

理解しやすかったです
特に不満なことはなかった
ごみをすてるのに分別は大切
集中が内容それほどむずがしくなかった

難しい環境問題だけど避けられないと思った

動画子どもの鹿児島の人たちは行動力が凄い環境を大事にすることを理解しました
何かのために少しずつと取り組むことが大切です
ごみの回収やクリーン活動

きちんと静かに授業に取り組めた

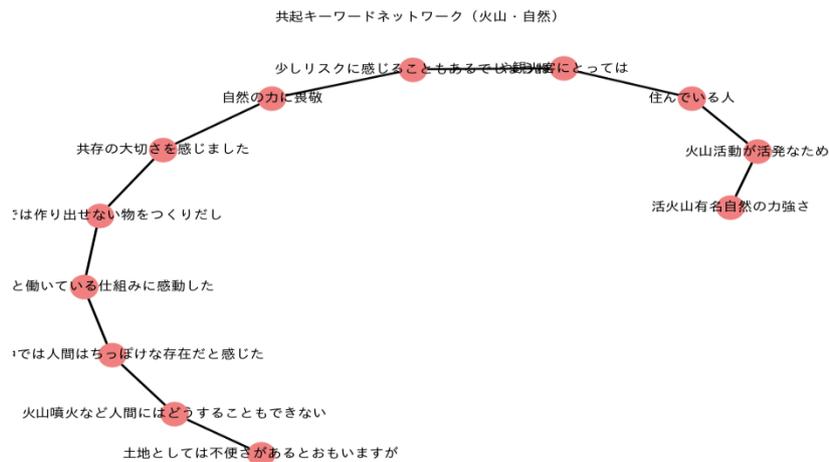
地域全体で協力している姿が印象的だったから
環境について深く考えるきっかけになった
結構わかりやすかった
海亀産卵場所についてや
集中難しい内容それほど難しくなかった
わかりやすい説明と充実した内容で深く理解できました

問3 考察

マイクロプラスチック問題に対する市民の声は、驚き・痛み・不安・希望といった多様な感情に満ちている。これらの感情は、行動変容の原動力となり得る。教育・政策・企業・市民が連携し、共感と知識に基づいた持続可能な未来を築くことが急務である。自然音体験を通じた生態系理解と感性の育成：学生の声から読み解くは、現代の環境教育において、生態系への理解は知識の習得だけでなく、感性を通じた体験的な気づきによって深まる。特に、蝉の鳴き声や風鈴の音、滝や水辺の音といった「自然音」は、季節感や記憶を呼び起こし、心の安定や癒しをもたらす力を持つ。本稿では、京都西山短期大学の学生による自然音体験の記録をもとに、生態系への気づきと感性教育の可能性を考察する。

問4：軽石塗り

環境教育を意識して



る。短期的な感想にとどまらず、思いやりや倫理観がどのように定着するかを検証する必要がある。

第二に、自然体験の質と量の違いが心理的・社会的成長に与える影響を比較することである。都市部と自然環境の違い、デジタル体験との比較など、多角的な視点が求められる。第三に、教育現場での実践的応用として、自然物を活用したカリキュラム開発や評価指標の整備が必要である。感性・倫理・共感力といった非認知能力の育成を、体系的に教育に組み込む仕組みづくりが求められる。

最後に、異文化共振の効果を地域社会全体に広げるための連携体制の構築が課題である。教育機関・自治体・地域住民が協働し、共生社会の理念を実践する場づくりが重要となる。

9. 引用文・参考文献

- ・レイチェル・カーソン『沈黙の春 (Silent Spring) 』1962 年
- ・権沢紫苑『精神科医が教えるストレスフリー超大全』2020 年
- ・環境省『SDGs と地域循環共生圏』2023 年
- ・文部科学省『隠れたカリキュラムに関する教育的考察』2022 年
- ・京都市西山地域環境教育推進協議会資料 (2024 年度)

10. 著者署名

著者： 京都西山短期大学 教授 呉屋奈都子

Author: Professor Natsuko Kureya, Kyoto Seizan College

謝辞

本論文の作成にあたり、共生社会学概論の趣旨を理解し快くテキストマインドの分析にご教示して下さった教授稲山訓央様、第一幼児教育短期大学助教青野孝洋様、学生の皆様に心より感謝を申し上げます。